

日野地区 人・農地プラン

別紙 1 参考様式

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
須坂市	日野地区（大字八重森、大字沼目、大字塩川、大字高梨、大字五閑、大字村山）	令和2年10月1日	令和2年10月1日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	240.2	h a
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	216.3	h a
③地区内における65才以上の農業者で後継者が不明な農業者の耕作面積の合計	194	h a
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	4.5	h a
（備考）		

注1：③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「（参考）中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

- ・村山の河川敷内の農地は、モモ、リンゴなどが栽培されている。共有地であることから、共有地の中で話し合いを行い、遊休農地の拡大防止を図る必要がある。
- ・八重森地区は後継者が少ないため、担い手確保に努める必要がある。
- ・リンゴ、モモの担い手が減っており、遊休農地の拡大のおそれがある。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

- ・耕作放棄地が発生しないよう、農用地の状況、耕作者の状況確認を行い、地域とのマッチング機能を強化し、農地中間管理機構を活用した農地集積を進める。

- ・効率的な農業ができるように、農地の集約化、作物の団地化を進める。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

農地の貸付け等の意向

貸付け等の意向が確認された農地は、45筆、2.9ヘクタールとなっている。

基盤整備への取組方針

河川敷内の農地、塩川地区の水田地帯など整備が進んでいないため、農地の集約化を図っていく。

新規・特産化作物の導入方針

- ・当地域はブドウ、リンゴ、モモ栽培が盛んであり、近年はブドウ栽培が増えていることから、ブドウ栽培を増やしていく。
- ・河川敷内の農地は、伝統野菜である村山早生ごぼう、モモやネクタリンの生産が盛んであるため、担い手の確保に努めるとともに、担い手に集約できるように働きかけていく。

鳥獣被害防止対策の取組方針

- ・カラス、ムクドリなど鳥害が多くなってきている。放任園の解消、畑にエサとなるような果物を放置しないよう広報に努める。